



グアテマラの民芸品を地域のイベントで販売した県立国際高校の生徒たち。フェアトレードを解説したチラシも配った



報告会では、企画に協力した各NGO担当者らによるパネル討論会が開かれ、「国際協力は特別なことではない。途上国のことを知りたいという気持ちさえあれば、できることは多いはず」とメッセージを送った

現状を変えるために自分たちができる国際協力のひとつ知り、実際に文化祭や地域のイベントで、べばつぶが扱うフィリピンのドライマンゴーを販売した。3年生の南原綾さんは、「好きなものを自由に買える先進国の豊かさの裏には、私たちが目を向けるべきさまざまな問題がある」と訴える。今回の経験は、自分の日々の暮らしや恵まれた環境を見直す機会となった。大学でもフェアトレードを研究してみたい。

知ること、伝えることの大切さを学ぶ

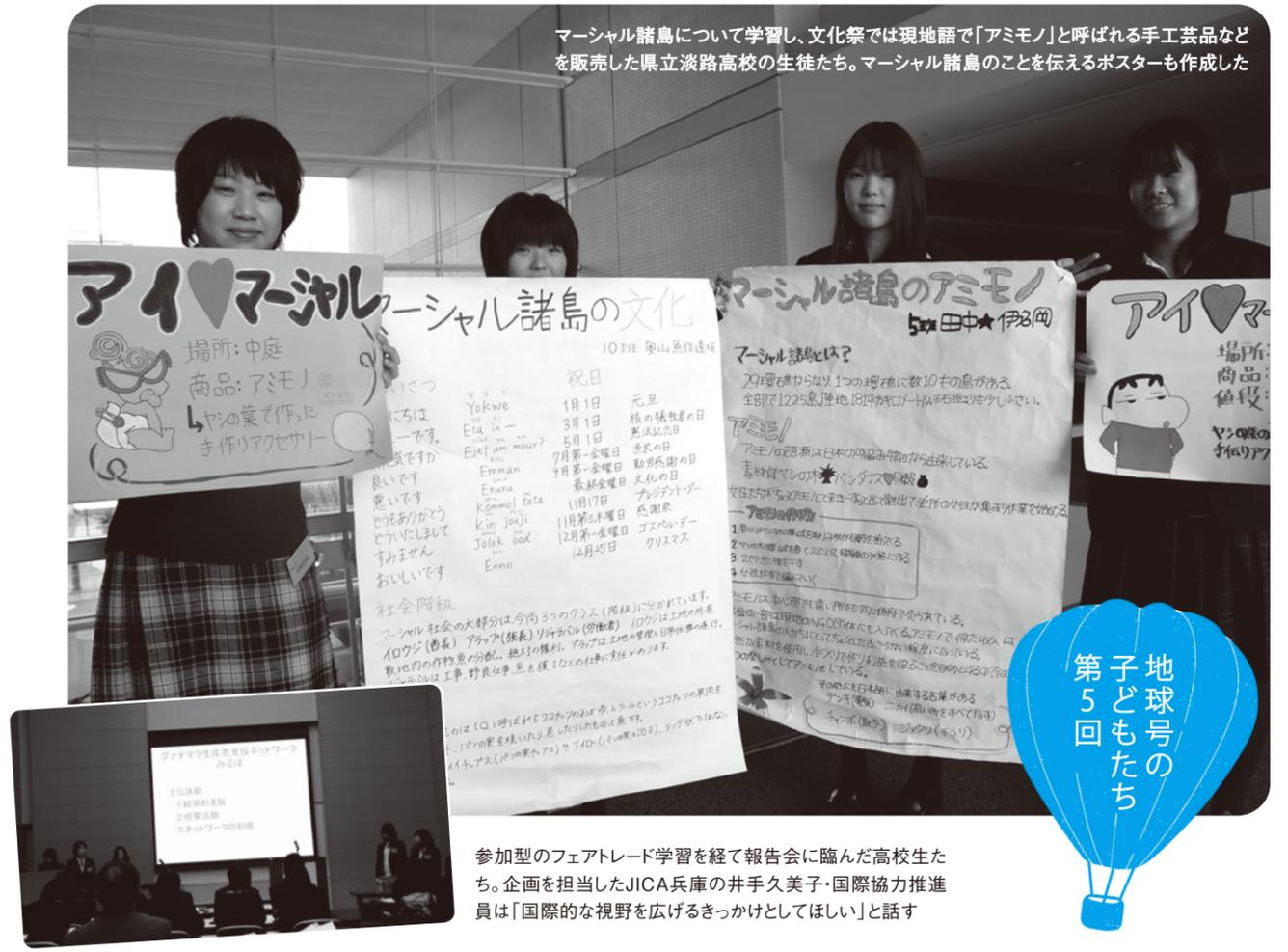
東南アジアの若者に農業や保健分野の技術研修などを支援する(財)PHD協会が実施した学習会でタイの少数民族について学んだのは、県立三木東高校の生徒たち。彼らはその後、少数民族の伝統手織物を地元のホテルで販売する活動を行った。報告会では、HIV/エイズのまん延や教育環境の未整備といった少数民族の貧困問題を紹介。そして「活動を通して、豊かな国の人々が『知らない』『知ろうとしない』『知っても行動を起こさない』ことが本当の貧しさを生み出しているのでは、と

考えるようになった」と話した。同校の岡本優子先生は「販売体験では、少数民族のことやフェアトレードの意義も一生懸命説明していたようです。日本にいる自分に何ができるのかを真剣に考え、行動する彼らの姿が印象的でした」と目を細める。また、発表では「高校生を対象にフェアトレード商品のアイデアコンテストを開催する」など、フェアトレードを広めるために高校生ができる活動も提案。協力したPHD協会の川原桂さんは、「高校生ならではの自由な発想に、たくさんヒントをいただいた。今後さまざまな形で一緒に活動していきたい」と期待を膨らませる。「フェアトレードは生産者の暮らしを支えるだけでなく、購入する人々の視野を広げることができる。国際協力は『ギブアンドテイク』なんだと気付いた」と言うのは3年生の前田拓海さん。将来は国際機関に就職したいと考えている。

ほかにも、文化祭で多くのパングラデシユ製手工芸品を売ることができた定時制の市立神戸工科大学、全校生徒にアンケートを取りフェアトレードの認知度を調べた市立豊合高校、文化祭でグアテマラの布・ビーズ製品を販売した県立淡路三原高校など、報告会でそれぞれの取り組みを発表し合い、たくさんの刺激を受けた高校生たち。「まずは知ることから始めよう」と誓いを新たに、「現地の状況をこの目で確かめたい」と目を輝かせた。今回のかけがえのない経験は、彼らの視野を広げ、次の行動へと踏み出す大きなきっかけになったといえるだろう。



べばつぶの学習会でフィリピンのドライマンゴー生産者の話を聞く洲本実業高校の生徒たち



マーシャル諸島について学習し、文化祭では現地語で「アミモノ」と呼ばれる手工芸品などを販売した県立淡路高校の生徒たち。マーシャル諸島のことを伝えるポスターも作成した

地球号の子どもたち 第5回

高校生がフェアトレードを体験学習

兵庫県の高中生たちが、フェアトレード※を通して、開発途上国の問題や身近にできる国際協力について考えた。彼らはどんな活動に取り組み、何を学んだのか。

海からの寒風が吹き荒れる1月11日。神戸港に面したJICA兵庫に、兵庫県の7高校から約50人の生徒たちが集結した。彼らは、JICA兵庫主催の「Youth Meets A」※1の参加者。2008年9月に始まったこの企画は、フェアトレードに携わるNGO6団体※2の協力のもと、高校生が途上国の現状について学び、文化祭などでフェアトレード商品販売して国際協力を体験するというもの。この日、約4カ月にわたる各校の活動の報告会が行われた。「ある有名スポーツブランドのサッカーボールは、つい最近までパングラデシユの子どもたちの児童労働で生産されていた」会場にそう語り掛けたのは、県立洲本実業高校の生徒たち。彼らは、世界の貧困問題の一つとして児童労働について調べ、その成果を発表した。きっかけとなったのは、フェアトレードでフィリピンの貧しいマンゴー農家を支援するNGO「べばつぶ」が行った学習会。「貿易ゲーム」と呼ばれるワークショップを通して、情報や技術の格差によって先進国と途上国に不平等な貿易体制が生まれ、貧富の差が広がっていることを学んだ。また、フェアトレードはそんな

※1 「A」は英語で「Agreement」と読み、アフリカ、アメリカ、アジアの頭文字の「AAA」と「広場」の意味を持つ「square」を掛けている。「Youth Meets A」は若者がそうした世界の「広場」に出会うことを意味する。
 ※2 (特活) シャプラニール市市民による海外協力の会(特活) アジアボランティアセンター、グアテマラ生産者支援ネットワーク、アジア女性自立プロジェクト、べばつぶ(財)PHD協会。